

## 令和2年度に向けた改善方策

令和元年度学校関係者評価委員会の評価を受けまして、令和2年度は次のように改善方策を講じてまいります。  
次年度もご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

令和2年3月26日  
真鶴町立まなづる小学校  
校長 浜口 勝己

重点項目	評価項目	学校の自己評価 (下段:昨年度)	コメント (自己評価・改善に向けた取組について)	次年度の改善方策
児童の確かな学力の定着と、自ら学ぶ意欲や思考力の育成	1	3.0 (3.1)	・取り組めていない児童へのかかわり方に工夫をお願いします。	【算数ステップ・読書の習慣化】 毎週の「読書タイム」(ボランティアによる月1回の読み聞かせを含む)は、各学年とも読書の習慣化ができており、全校で読書に親しむ時間となっている。モジュールとの兼ね合いもあり、今後は月曜日に時間を設定して取り組んでいく。また更なる読書の習慣化の工夫について検討していく。 算数ステップは毎週水曜日に1～3年で今後も継続して取り組んでいく。丸付けや児童への個別対応などについて課題があるが、担任以外の職員の関わり方についても検討していきたい。今年度5・6年で実施した朝モジュール(算数)は、従来の算数ステップが習慣化していたこともあって、継続的に取り組むことができ、時数の確保も行えた。来年度は、4～6年を対象とし、教科も国語と算数で実施していく。内容は朝のモジュールに適したものとなるよう検討し、時数の確保も図っていく。
	2	2.9 (3.1)	・家庭学習がんばりWEEKの継続により家庭との連携が深まり、家庭学習の習慣がついてきている児童が増えてよい傾向だ。反面、家庭によっては、家庭学習が子どもと保護者の負担になっているのではないかと懸念がある。家庭状況により差があれば、何らかのサポートの仕方など考慮した方がよい。また、教師からの学年に合わせた家庭学習の指針があるとよい。 ・各家庭の教育力の差をどのように対処したらよいかという声を汲み取り、保護者・児童にもわかりやすく、実践しやすく、そしてやる気が出る「家庭学習の手引書」のようなものの検討を望む。(秋田県など先進県参考に、小中で使える真鶴バージョンで) ・根気よく、繰り返し家庭との連携を取り続けることが必要であり、教師はあきらめないでほしい。	【家庭学習の取組】 昨年度に引き続き、今年度も各学期に家庭学習がんばり週間を設定し、家庭学習がんばりカードを活用して、家庭学習の習慣化に取り組んだ。保護者と連携した取り組みを行うことで、意欲をもって取り組む児童も増えてきた。内容については、児童の実態をもとに各担任で検討するとともに、校内の学力向上に向けた話し合いも生かしつつ取り組んでいる。一方で家庭での取り組みや児童の意識の差といった課題があり、今後は「家庭学習のすすめ」などをベースに、より一層児童の実態に合った家庭学習の内容や取り組みについて検討を図り、家庭学習の習慣化について各家庭と連携して取り組んでいきたい。
	3	3.2 (3.2)	・児童数が減少傾向に向かう中、TT少人数・支援員・英語専科の教職員の増員と手厚い対応がとられ、児童・教師双方にその成果がうかがわれる。一方で、児童の状況がますます多様となり、今まで以上に個に応じた指導の必要が推察される。かなり気にかかる児童がいる場合、さらに一人、支援員がいてくれることが望ましく、臨機応変に対応できる教員資格のスタディサポートなど、一層の充実を望む。 ・支援の教師がいるおかげで、昨年気になった学年も落ち着いて授業を受け、成長を感じるよい雰囲気である。しかし、まだサポートを必要としている児童がいるように思う部分もある。 ・授業に無関心だったり、躓きの見えたりする児童に対して、早い時期の実態把握と対応、個のニーズに応じた問題解決策、効果的な指導・支援等のありかたなど、児童を取り残さないよう取り組んでほしい。	【TT・少人数、リソースルーム等】 今年度は全学年単級となる中、県費教職員として「TT・少人数」担当の教員が配置され、学習に複数教員で対応する場面が増え、学習効果が高まった。また町の支援をいただき、町費教職員として「外国語」担当教職員が配置となり、各学年児童において外国語学習への学習意欲の高まりを感じる事ができた。その一方で個別対応・継続的関わりなどが必要な児童が各学年にいたこともあり、サポートの在り方について検討していきたい。支援員の配置についても、学年学級の実態を考慮しながら、柔軟に対応できるようにし、学年・学級の状況に応じて、町非常勤講師を配置して、きめ細かい指導・支援に努めていきたい。
	4	3.0 (2.7)	・備品などはこまめにチェックしてゆくことが望まれる。	【教育課程の整備・改善(外国語活動への対応を含む)】 新年度の新学習指導要領の完全実施に向けて、前述のようにモジュールの導入を行う。また、全職員で教育課程の編成を行うとともに、各教科学習における安全配慮事項を作成した。今後も備品の更新を図るなど安全な学習の確立にむけ取り組んでいく。

児童の豊かな心の育成	5	校内指導体制を確立し、共通理解・共通行動を図り、全職員で指導する。特に問題行動に対しては、すばやく対処し、解決を図っている。	3.2 (3.0)		
	6	人権教育推進研究の取組を通して、教職員・児童・保護者・地域が一体となって人権感覚の醸成を図っていく。 アンケート調査、Q-U検査等による情報収集と実態把握、それに基づく児童指導の充実を図り、いじめのない楽しい学級づくりが進められている。	3.0 (3.1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや嫌がらせがあった場合、教師や当事者だけではなく、全体で共通認識することが今後の抑制に繋がる。</li> <li>・「いじめ」は表に見えないことが多く児童一人一人の変化など、細かく見る必要がある。2年間の県委託による人権教育推進研究で得た経験を教師自ら実践し、模範となる姿は子どもたちにも伝わっている。人権を考えることはいじめ防止にもつながるので継続してほしい。</li> <li>・相手が嫌な思いをしたら、それはいじめだということが子どもたちに浸透し、分かりやすい指針になっている。今後もいじめ防止朝会や道徳で繰り返し児童に投げかけ、優しく丁寧な言葉が使えるよう、人を思いやれる行動がとれるような児童たちの育成を切に願う。</li> <li>・クラスの子が話しかけてくれないと答えた児童が全校で24名もいると捉えてほしい。なぜ話しかけてもらえないのか、原因等を考え無視やいじめに繋がっていないかを見極め、適切な対応を考えてほしい。学校は居心地のよい場所であってほしくない。</li> <li>・いじめだと思わずに言った言葉で、相手が傷つき、いじめに発展してしまうこともあり難しい問題だが、いじめ防止朝会・道徳などで児童に考えさせる機会は継続してほしい。</li> <li>・学校では「～さん」付けだが、そうではない地域・保護者の方を児童はどう思っているのか聞いてみたいが。</li> </ul>	<p>【人権教育】 県の委託による人権教育推進研究終了後も、呼名の際の「さん付け」「ほかほか言葉への意識付け」「異学年交流」など学習や交流の場など人権意識の日常化に取り組んできた。全校での取り組みを大切に意識をもって、引き続き全職員で共通理解を図っていく。</p> <p>【いじめ防止】 いじめ防止朝会をととして全校でいじめの理解と防止のための共通認識をもつことで、いじめ防止への意識が高まってきたと感じている。アンケートなどを活用するとともに、日頃から児童や家庭から相談しやすい雰囲気を意識することで、「いじめ防止基本方針」を有効に機能させ、表に出にくい「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応に努める。 また「いじめは、在り得るもの」として職員が意識することで、担任一人で抱え込むことなく、学校全体でチームとして対応できるような指導体制を継続していく。実際の指導にあたっては、加害側、被害側の思いを丁寧に見取り、家庭とも連携を図りながら、児童の深層心理にも響くような児童指導を目指したい。表面的な解決ではなく、継続的な観察を大切にとらえ、児童の育ちを支えていけるよう取り組んでいく。</p>
	7	不登校傾向の児童に対して、朝の家庭への連絡、家庭訪問や保健室登校といった対応、さらには地域の協力者、専門機関と連携を行うことにより、登校へ向けて組織的に取り組んでいる。	3.4 (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻については何か対策を望む。また、安全の観点からも、解消に向けて、家庭との連携に根気強く取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>【不登校への対応】 登校時間の周知徹底を図るとともに、遅刻の際の家庭への連絡を今後の継続して実施し、理解を深めていけるよう取り組んでいく。 月3日以上欠席、遅刻の多い児童など、不登校につながる要素に目を配り、外部の協力もいただきながら、家庭と連携を図り、未然防止に努めたい。</p>
	8	各学校行事の充実を図ることにより、児童にとって潤いと活気のある学校生活が保障されている。 基本的な生活習慣（あいさつ・礼儀・時間を守る等）の確立を図っている。 携帯電話・ゲーム時間の管理の指導について家庭と連携を図っている。	2.8 (2.8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この4月から実施される授業時間増加や、教師からの行事に関する意見からも、行事の精選とスリム化を急務でお願いしたい。夏休みを減らすよりも先に行事を減らすべきと受け止める方々は必ずいる。例えば、運動会を午前中だけで終えるプログラムにするなど、これまでの慣例を破る大胆な発想も必要ではないか。</li> <li>・基本的な生活習慣の指導には、家庭との密な連携が不可欠である。なぜ挨拶をする事、時間を守る事が大切なのかを、家庭でも意識してもらい、さらに児童へ根気よく説明してほしい旨、学校側も連絡を密にして協力体制の必要性を働きかけ、タッグを組んで取り組んでほしい。</li> <li>・低学年に携帯電話は必要なのか。特別に持たせた場合、児童、保護者に説明する必要があるかもしれない。</li> <li>・決められたルールなど（指導の）回数を重ねて身に付けていくという姿勢がよい。行事を通して仲間の大切さを知るという経験は必要だ。</li> </ul>	<p>【行事の充実】 各行事についてそのねらいを確認するとともに、内容や準備時間を考慮しながら、内容の検討を図っていく。</p> <p>【基本的な生活習慣・ネットリテラシー】 挨拶をはじめとした基本的な生活習慣の定着に向け、生活目標やあいさつ運動、様々な日常の場において生かせるよう指導していく。また保護者と連携して協力して取り組みを進めていきたい。全国学力・学習状況調査から、児童の情報端末利用時間が長時間に及んでいる実態があり、児童に対しては、引き続き発達段階に応じたネットモラル・リテラシーに関する指導を行う。保護者に対しては、児童への指導について情報を共有しつつ、指導を連携して行えるようにしたい。学校公開日に児童と共に学べる場の設定をするなど取り組みを検討したい。</p>

児童の健康づくり、安全の確保	9	安全で充実した教育活動を保障するために、施設、設備面での改善や、登下校時の安全の確保が図られている。	2.8 (2.9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの事柄もそうだが、二重三重のチェックを徹底した方がよい。また、時には、保護者、地域の方にもお願いして町全体で児童の安全を確保した方がよい。子どもの安全が最優先なので、予算確保を切に願う。</li> <li>・担任以外の先生方で様々な確認をしていることは保護者として安心だ。</li> <li>・先日安全面という観点で校内を点検し、全く気が付かなかった危険箇所を委員等で確認することができたことは意義があった。評価委員として足を運ぶ機会があったにもかかわらず、子どもたちの安全面に視点が向いておらず大変申し訳なく思った。今回の事故を受け、生活面と施設面の安全管理を「一（いち）」から見直し、多くの改善がなされ、保護者も安心していることと思う。先生方の心労と疲労もピークに達したことと思うが、様々な配慮に感謝する。残り1ヶ月、受傷した児童の心のケアをお願いするとともに、安心して中学に進めるよう中学との連携をお願いする。</li> <li>・安全点検の際の意見がすぐに反映されたことは評価できる。一時的ではなく、継続して、いろいろな人の意見を聞いてほしい。下校の時に横断歩道ではないところを渡る児童を見かける。前年も同じ意見を書いたが改善がなされていない。児童とどういふところが危険か話し合いをしてみてもどうか。</li> <li>・公開日などで来た保護者アンケートに施設・設備で気になったことを書いてもらう方法はどうか。</li> </ul>	<p>【施設・設備面での改善（校内外）】</p> <p>安全な教育の推進のため、校内施設の緊急安全点検を実施し、改善を進めてきた。「万が一」を想定して改善すべきところについて、特別支援学校、学校評議員、学校関係者評価委員にもご協力いただき「外部の目」で指摘をいただいた。その中でも、教室、廊下、階段および教材・教具などは児童の学校生活に直結することから、突起や段差、物品の配置などを改善した。また、町教育委員会の協力を仰ぎ、体育館などの施設の点検や敷地内の自動車通行区分の改善など、児童の安全に配慮した改善を進めてきている。今後は、定期的な職員による安全点検の内容や項目の再検討を行い、事故の発生を未然に防ぐ手立てを講じ、安全への意識を職員間で共通理解できるようにしたい。また校内の施設・設備面については、児童の安全性を第一に考え、今後も町と連携を図り、優先順位を考えながら改善を図っていききたい。児童の登下校における安全については、通学路に関する安全面（防犯、防災、交通安全）に関する施設・設備について、町への報告・相談を密にし、これまで同様に関係機関と連携を図りながら、改善に向けて検討をしていく。また指導においては、交通安全教室の実施に加え、日頃より、注意喚起を行い児童の意識向上を図りたい。</p>
	10	家庭と連携し、食育を中心とした健康づくりや、望ましい生活習慣の定着を中心とした健康管理が進んでいる。(学校保健委員会での取り組み、家庭への啓発活動)	3.0 (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の大切さを強調するのは、とても素晴らしいので継続してほしい。毎年違うことを取り組むとせっかくやったことを忘れてしまいがちになるので、一つのことを徹底的に繰り返し行うことにより小学校での習慣化に繋がるのではないかと。</li> <li>・栄養教諭が発行する「食育だより」は毎月工夫がなされ、食に対する関心を高めるための一助となっている。食育が大切なことを、読んでくれない家庭があっても、あきらめずにお便りなどで繰り返し発信してゆくことが大切。また、朝食アンケートは保護者にとっても食べることの大切さを再確認するので継続してほしい。</li> </ul>	<p>【食育を中心とした健康づくり】</p> <p>「食育」の大切さについて、栄養教諭を中心に各担任が協力して取り組んでいる。アンケートや食育の授業など、児童が食事について考える指導を行っている。年に1回行っている「お弁当の日」では、学年の発達段階や児童・家庭の実態により、「お買い物コース」「詰め詰めコース」「料理のお手伝いコース」「自分で一品作るコース」「自分で全部作ろうコース」の5つのコースを提示し、児童と保護者で相談の上、コースを選択し取り組んだ。来年度も今年度同様、年に1回、学校公開日の土曜日に行う。また朝食アンケートや栄養教諭が発行する「食育だより」などで啓発を図り、食への理解が深まるようにしていきたい。</p>
職員の指導力向上と校内研究の推進・幼小中12年間の教育	11	幼(保)小中連携研究を進める中で、12年間を見通した教育内容の厳選と基礎・基本の定着が図られている。幼小中連携と学年の段階性と連続性を図る。	2.8 (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12年間連携して、共通した一貫教育に取り組めるのは、小さな町だからこそその強みだ。中学の道徳の授業や幼稚園の保育を小学校の教員が参観し、幼小中の合同研究会が活発に行われ、教員全体で12年の連続した学びについての意識が高まっている。子どもたちにおいても頻繁にお互いの校舎に向いたり、招いたりする機会があり、真鶴らしい学びができています。また、限られた時間の中で連携を図る教師の姿勢は大変評価できる。それぞれの育ちの段階を知ることで、さらに良い指導へつながる。また、今後は今まで以上に保育園との連携が大切となり、足並みが揃うことに期待する。</li> <li>・現状、保育園の協力が難しいと思うが、幼稚園でせっかくやった英語を小学一年生でうまく連携できているのだろうか。</li> <li>・時間不足というのであれば小さなことから大切にした方がよい。</li> <li>・難しいかもしれないが、児童減少の中、小中合同運動会なども一考してみてもどうか。</li> </ul>	<p>【校内授業研究（連携教育）】</p> <p>幼・小・中が連携した研究を行うため、平成29年度に作成したリーフレットを活用して、合同研究会を実施している。新たに赴任した教職員も含め、教職員全体でその実践の意義について共通理解を図った。また校内では外国語の担当教職員の配置により、前述のように学習効果が高まり、ICT教育でもプログラミング教育の研究授業により、今後の見通しをもつことができた。外国語やICT教育は、幼小中、または小中の相互参観などによる連携を行っていききたい。今後は、今年度同様に幼小中合同研究会で概要をつかみ、新たに赴任する教職員も含め、教職員全体で実践の意義について共通理解を図ったうえで実践を重ねていきたい。各連携事業を行う際には、その目的を明確にするとともに、振り返りを行い、園児・児童・生徒と一緒に活動し、充実感や達成感を得られる取り組みとなるよう、今後もこれまでの実践を継続して取り組んでいく。</p>
	12	校内研究の授業を行うことや初任研や年次研に全員で取り組むことが、職員個々の指導力の向上につながっている。	3.2 (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の先生の向上心を感じることができた。</li> </ul>	<p>研究主題に沿って、算数科や道徳の研究を進めた。各学年児童の発達段階を考慮し、学習の効果を高めようとする取り組みで、教職員間のOJTとしても機能している。今後もお互いの研鑽の場として活用していく。</p>
	13	児童指導や支援教育、道徳の時間等の校内研修により、個々の教師の指導力の向上が図られている。	3.3 (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修後の話し合いなどが大切なので時間がとれるとほんとによい。</li> </ul>	<p>研修をとおして、児童理解や学級経営の在り方などについて理解を深めた。教職員全体で共通理解を深めるため、今後も継続できるようにしたい。</p>

地域協働・開かれた学校づくりの推進	14	教育課と連携しながら地域協働の推進に全校で取り組み、地域の人材（保護者）の活用により、教育活動の充実が図られている。 地域と連携しながら教育活動を行い、「真鶴ふるさと教育」の推進を図っている。（海水浴体験、遠藤貝類博物館、海の学校、真鶴絵画館等の取り組み）	3.5 (3.4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごと取り組みを大事にして続けてほしい。「まなづららしさ」を児童に知ってほしい。</li> <li>・町教委・コーディネーター、スクールサポーター、そして、保護者と学校を応援してくれる方々がたくさんいて、子どもたちの学びを多方面から支えてもらっている。（関わる側も子どもたちと学んで元気をもらっている。）子どもたちにとっても家族や教師以外の大人と出会う貴重な場となっている。</li> <li>・各学年により、それぞれのテーマでふるさと教育がなされていることは、とてもよい取り組みだ。地域ボランティアや職場の人たちの協力はほんとにありがたいことで小さな町ゆへの親近感のようなものを感じる。このようなカリキュラムによって郷土愛などが育まれていくように思う。</li> <li>・必須科目が増える中、大変だと思うが、海の学校、美術館、博物館とよい体験ができて、自分たちが住んでいる真鶴のことを知れるのはよい。</li> <li>・宗教・信仰だからできないではなく、貴船祭りが真鶴町の伝統・歴史である以上、ふるさと教育に取りあげられる方法はないのかどうか。</li> </ul>	<p>【地域の人材（保護者も含む）を活用しての取組】</p> <p>町教育委員会とコーディネーターの方々のおかげで、様々な学校の教育活動にボランティアのご協力をいただくことができた。今年度は1年生の「昔遊び」、5・6年生の「ミシン縫い」、3年生～6年生の「書き初め練習」および「書き初め」にご協力をいただいた。ボランティアの中には今年度、初めて参加された方もいて、「今後また協力したい。」との感想をいただいた。来年度もまた、効果的な教育活動にむけて、地域の方々の協力をお願いしていきたい。</p> <p>【「真鶴ふるさと教育」の推進】</p> <p>海水浴体験や海の学校、芸術学校など、町教育委員会はじめ関係機関のご協力をいただき、今年度も充実した学習を行うことができた。今後は児童の安全を重点に、「真鶴ふるさと教育」の意義・内容について共通理解を図り学習を展開していきたい。</p>
	15	学級・学年・学校だよりの発行、ホームページの開設により、特色ある教育活動を公表し、保護者、地域に理解が得られている。 保護者教育相談、学校公開日の設定により、教育活動について保護者、地域に理解が得られている。（町のまなづらふるさと教育の推進に関する条例も含む）	3.0 (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスだよりは（作成にかなりの時間がかかっていることから）回数などを減らしてもよいが、何かある時、あった時には週案などを活用して「お知らせ（連絡）」としてきちんと報告してほしい。</li> <li>・しかし、1年生はこまめにクラスだよりがあると保護者には安心感がある。</li> </ul>	<p>【開かれた学校】</p> <p>今年度も学期ごとに土曜日の公開や複数日の公開日を設け、通常の授業の様子を保護者や地域の方々に参観していただいた。学習の予定については今後も次週の予定や連絡事項を一週間単位でお知らせしていく。また、学級だよりで児童の学習の様子や学習活動の工夫等について発信し、学校の取り組みを保護者に伝えていく。</p>
感想・意見				<p>保護者・地域の皆様からのご意見やご助言を真摯に受け止め、全職員で主体的に学校運営のPDCAを確実に実行したいと考えている。今年度は、計画・実施・反省の点検を年度途中（1学期末）に行い、課題を確認することができた。課題については、改善方策を協議・検討しながら、実践を重ねていく。また、年間反省の結果を分析し、次年度に確実に引き継ぐようにする。また今年度は児童の声を学校評価に生かせるよう、例年2月に行っていた学校生活アンケートを1月に実施した。さらに、児童数の減少に伴い、教職員の定数も減少することから、校務分掌の在り方や業務内容の再検討を進め、教職員がゆとりをもって児童に向き合えるような環境づくりを検討していきたい。</p>	
<p>○教師の負担を考えると、全体的に仕事量を減らすべき。疲労困憊で注意力散漫になり、子どもたちに何かあってからでは遅い。保護者の立場としては、毎日夜遅くまで、子どもたちのためにしてくれることに感謝している。ありがたし。</p> <p>○先生、保護者、生徒のアンケート結果を見て温度差があると感じた。安全面については早い対応に安心感がある。</p> <p>○目の前の行事・授業にばかりとらわれず児童一人一人の心の変化やSOSに素早く反応していただけると保護者として安心。家庭とはもっと繋がりをもってもよいのではないかと感じる。</p> <p>○日本の教員は世界一忙しい職業だと見聞きする。教科指導と生活指導以外での負担が年々増す中、負担軽減が可能な業務を簡素化し、必ずしも教師が担う必要のない業務は、現在あるサポートスタッフや地域人材の参画の輪を広げ、校長を中心にコミュニティスクールの仕組みを構築し、教師には子どもたちの教育にゆとりをもってじっくり関わる時間を確保してほしいと思う。</p> <p>○地域の人々、ボランティア等々の協力や理解のもとにふるさと教育のような郷土愛を育む教育活動が充実していることはすばらしい。学校関係者はもとより地域の人たちの子どもたちに対する温かさが感じられる学校だ。</p> <p>○校内が暗く、清潔感がないと保護者アンケートにあった。幼稚園のように夏休みなどの長期休み期間に保護者に声をかけ、特に気になる箇所のペンキ塗りなどできないものか。（幼稚園ではトイレの壁を参加できる保護者たちで塗った。）</p> <p>○中学生のアンケートから「TTがいや。2人以上の先生が来る授業がいや。」と書いてあった。（親としてはありがたいことなのだが）小学生からTTや2人以上の先生が来るのが当たり前と児童が捉えてくれると中学生になってもストレスに感じないかもしれない。</p>					